

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024 全ラインナップ発表!!

《スクリーン上映》7月13日(土)～7月21日(日)
《オンライン配信》7月20日(土)～7月24日(水)

ご担当者各位

本日6月7日(金)、神楽座(東京・飯田橋)にてSKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024の記者発表を行い、コンペティション部門ノミネート作品や特集上映をはじめとする全ラインナップを発表いたしました。

第21回目を迎える今年は、7月13日(土)～21日(日)の9日間にわたり、埼玉県川口市のSKIPシティで開催いたします。また、7月20日(土)～24日(水)には、ノミネート作品の一部をオンラインで配信いたします。

開催初日となる7月13日(土)は串田壮史監督、映画や大河ドラマで活躍中の毎熊克哉主演による最新作『初級演技レッスン』の上映(ワールド・プレミア)で幕を開けます。

コンペティションでは、102の国・地域から応募のあった1,201作品から厳選した24作品を、いずれも国内初上映でお届けします。

国際コンペティションには2009年に本映画祭でSKIPシティアワードを受賞し、その後、『死刑に至る病』、現在公開中の『碁盤斬り』など話題作を手掛けている白石和彌監督が審査委員長として凱旋します!

国内コンペティションでは、『ジャーマン+雨』や『ウルトラミラクルラブストーリー』の横浜聡子監督が審査委員長を務めます。

コンペティションは映画祭期間中の最終審査を経て最優秀作品賞をはじめ各賞を授与します。

さらに、特集「商業映画監督への道」では審査委員長の白石監督と横浜監督の作品上映と若手映画監督に向けて商業映画監督としてのご経験をお話しいたします。

また、映画祭をより身近に感じていただくために、名作の中からアンケートを実施し、上位となった4作品を上映する「みんなが観たい上映作品」では『ドライブ・マイ・カー』『スタンド・バイ・ミー』『ショーシャンクの空に』『トップガン マーヴェリック』を上映します。

『トップガン マーヴェリック』の上映後には映画字幕翻訳者の戸田奈津子さんをお招きしてトークイベントを開催します。

詳細は次ページ以降のとおりです。本年も映画の未来を担う、新たな才能の発掘に取り組んでまいります。

ぜひ貴媒体にて本情報をご紹介くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



オープニング上映『初級演技レッスン』 毎熊克哉主演、串田壮史監督作品（ワールド・プレミア）

映画祭の幕開けを飾るオープニング作品。今年は串田壮史監督の『初級演技レッスン』をワールド・プレミアで上映します！父親とのトラウマを抱えたまま、時間が止まったような廃工場で「初級演技レッスン」を開いたアクティングコーチが、即興演技を通じて、父を亡くした子役俳優や、寂しげな教師の記憶に入り込み、彼らの人生を遡っていくことで奇跡に出会う物語。串田監督は2020年に『写真の女』で本映画祭SKIPシティアワードを受賞。昨年も『マイマザーズアイズ』が2作品連続でノミネート。

主演は2011年の本映画祭短編部門で奨励賞を受賞した『ケンとカズ』（11）主演の毎熊克哉。また同じく2014年の本映画祭短編部門にノミネートされた『時ノカケラ』（14）主演の大西礼芳が共演する。さらに期待の若手である岩田奏、串田組常連の鯉沼トキ、永井秀樹らも印象的な人物を演じている。



(C)2024 埼玉県/SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ

特集「商業映画監督への道」

若手映画監督に向けての商業映画監督としての経験をお話しいたします

国際コンペティション審査委員長の白石和彌監督、国内コンペティション審査委員長の横浜聡子監督をお招きして、おふたりの監督作品『止められるか、俺たちを』『ウルトラミラクルラブストーリー』の上映と、若手映画監督に向けて商業映画監督としてのご経験を語っていただきます。

止められるか、俺たちを

Dare To Stop Us

白石和彌

日本

配給:若松プロダクション・スコール

(C)2018 若松プロダクション



ウルトラミラクルラブストーリー

Bare Essence of Life

横浜聡子

日本

配給:リトルモア

(C)2009「ウルトラミラクルラブストーリー」製作委員会



国際コンペティション

すべて日本初上映の厳選10作品をノミネート！

今年の国際コンペティションは、厳正なる一次審査を経て10作品をノミネート。審査委員長にはデビューから数々のヒット作を手掛ける白石和彌監督が就任し、最終審査を経て最優秀作品賞をはじめ各賞を授与します。

審査委員長：白石 和彌（日本）
映画監督

1974年生まれ、北海道出身。2013年に『凶悪』が新藤兼人賞金賞をはじめ多くの映画賞を受賞。2018年『孤狼の血』などでブルーリボン賞監督賞や日刊スポーツ映画大賞監督賞、さらに翌年2019年には『麻雀放浪記2020』『凧待ち』『ひとよ』でキネマ旬報日本映画監督賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞を立て続けに受賞。その後、『死刑にいたる病』（22）、配信ドラマ「仮面ライダーBLACK SUN」（22）を経て、2023年『湯水』を自身初プロデュースする。2024年に『碁盤斬り』を公開。Netflixシリーズ「極悪女王」、映画『十一人の賊軍』が公開を控えている。



お問合せ・ご取材：SKIPシティ映画祭事務局 広報：青木・田中

Tel：048-263-0818 Eメール：press@skipcity.com

※すべてのイベントは予告なく変更または中止となる場合がございますのでご了承ください。

『Before It Ends(英題)』

Before It Ends

監督:アンダース・ウォルター

制作国:デンマーク

アジアプレミア/配給:スターキャット

(C)2023 NORDISK FILM PRODUCTION A/S



第二次世界大戦下、市民大学がドイツ難民の収容所に指定され、校長のヤコブとその家族は理不尽な状況に追い込まれる。彼らは難民を助けるべきか、それともドイツ軍に対するデンマークの抵抗に加わるべきなのか？

子を生(な)すこと

Love Alone Can't Make A Child

監督:ジュディス・ポイト

制作国:ドイツ、ノルウェー

ジャパンプレミア

(C)Kloos&Co



マリアとクリスティアーネ。一組のカップルが緊張しながら1本の電話を待っている。二人で子どもを生(な)したい。そのために10年をかけて取り組んできた二人への結論の電話だ。そして物語は二人の出会いまで遡る。

マスターゲーム

Mastergame

監督:バルナバー・シュート

制作国:ハンガリー

ジャパンプレミア

(C)Lenke Szilágyi



西へ向かう亡命列車に乗り合わせた人々は、ひょんなことからチェスで勝負をすることになる。やがて車内に不穏な空気が漂いはじめ、物語は思わぬ展開をみせる。

別れ

Separation

監督:ハサン・デミルタシュ

制作国:トルコ

アジアプレミア

(C)Hasan Demirtas



トルコ東部クルドの村に暮らすハミットは、5年前に亡くなった妻の墓参を日課としている。ある時始まった政治的混乱により穏やかな生活は一変し、ハミット一家と村人たちは村を去るか残るか選択を迫られる。

私たちのストライキ

Striking the Palace

監督:ネシム・チカムイ

制作国:フランス

アジアプレミア

(C)2024 ALBERTINE PRODUCTIONS - PRIMA VISTA FILMS - LE PACTE - FRANCE 3 CINEMA



20歳のエヴァは、フランスホテル業界格付け最高位の称号「パラス」を持つ高級ホテルの客室係チームに加わる。異なる年齢、背景を持つメンバーと共に働きながら、劣悪な労働環境の現実と直面していく。

嬉々な生活

Happy life

監督:谷口慈彦

制作国:日本

ワールドプレミア

(C)belly roll film



家族の精神的支えであった母を失い、父は悲嘆にくれ失業。中学生の嬉々は、幼い弟と妹の面倒をみながら、アルバイトで家計を支えようとするがうまくいかない。ある日元担任の迷惑行為を目撃し…。

マリア・モンテッソーリ

Maria Montessori

監督:レア・トドロフ

制作国:フランス、イタリア

ジャパンプレミア/配給:オンリー・ハーツ

(C)GEKO FILMS - TEMPESTA FILM



AmazonやGoogleの創業者、歌手のテイラー・スウィフト、将棋の藤井聡太などが受けたことでも注目されるモンテッソーリ教育。その生みの親であるマリア・モンテッソーリの劇的な人生を色彩鮮やかに描く。

ミシェル・ゴンドリー DO IT YOURSELF!

MICHEL GONDRY - DO IT YOURSELF!

監督:フランソワ・ネメタ

制作国:フランス

ジャパンプレミア

(C)François Nemeta



初期ミュージックビデオから新作の撮影現場まで、極私的映像、豊富なアーカイブ、家族や錚々たるアーティスト・協働者たちへのインタビューを織り交ぜ、稀代の芸術家の秘密を解き明かす。

連れ去り児(ご)

Stolen

監督:カラン・テージバル

制作国:インド

ジャパンプレミア

(C)Jungle Book Content Studio Pvt. Ltd.



あるインドの田舎町。駅のホームで寝ていた女性の元から赤ん坊が連れ去られた。帰省の途中たまたま、駅に立ち寄った兄弟は、ひょんなことから誘拐犯と間違われ、事件に巻き込まれていく。

日曜日

SUNDAY

監督:ジョキール・コリコヴ

制作国:ウズベキスタン

ジャパンプレミア

(C)Yoshlik



静かなウズベキスタンの村で暮らす老夫婦。穏やかに満ち足りた暮らしを送る二人のもとに、町に住む息子が次々と最新の電化製品を運び込み始める。慣れ親しんだ家を壊し新築する計画を立てる息子。二人は反対するが…。

お問合せ・ご取材: SKIPシティ映画祭事務局 広報: 青木・田中

Tel : 048-263-0818 Eメール: press@skipcity.com

※すべてのイベントは予告なく変更または中止となる場合がございますのでご了承ください。

国内コンペティション（長編部門、短編部門）

日本映画界の未来を担う若手監督の個性が光る力作を厳選

ホラー、時代劇、ロードムービー、アニメーション、ヒューマンドラマ……。今年も、趣やジャンルの異なる意欲作が揃いました。日本映画の未来を切り開く新たな才能の息吹に、いち早く触れるチャンスをお見逃しなく。審査委員長には横浜聡子監督が就任し、最終審査を経て長編、短編の両部門からそれぞれ優秀作品賞を決定します。

審査委員長：横浜 聡子（日本）
映画監督

大学卒業後、映画美学校入学。卒業制作『ちねみちゃんとこっくんぱっちょ』（05）が評価され、大阪のCO2映画祭の支援を受け、中編『ジャーマン+雨』（06）を制作。2007年度日本映画監督協会新人賞を受賞。2009年、商業映画デビュー作、松山ケンイチ主演『ウルトラミラクルラブストーリー』を制作。2021年、映画『いとみち』が公開、多数映画賞を受賞。ディズニープラス配信中作品「季節のない街」（宮藤官九郎脚本）の演出を数話担当。2025年、長編新作が公開予定。



長編部門（6作品）

朝の火

Lost in Reminiscence

監督:広田智大

制作国:日本

ワールドプレミア

(C)Tomohiro Hirota



ごみ処理施設焼却炉。丸窓には煌々と燃える火。ラジオから官房長官の声。元号が変わると告げている。この社会では助けを求めることも自分を救うことも出来ず、皆それぞれに狂っている。

明日を夜に捨てて

A Wasted Night

監督:張蘇銘

制作国:日本

ジャパンプレミア



風俗嬢のアヤとアスカ。性格は正反対だがなぜか気が合い、暇さえあれば他愛のないおしゃべりをする。ある日送迎車が故障し、二人は夜の街を歩くことに。彷徨ううちに、いつも通りの会話がしだいに意味を持ち始める。

雨花蓮歌

Poems of flower rain

監督:林正一

制作国:日本

ワールドプレミア

(C)Jengilpark



楽しい大学生活を送りながらも、家族関係や友人のさりげない言葉に悩む妹の春美。結婚を考えているが母や周囲から反対されている姉の麗子。二人の姉妹は次第に小さな衝突を繰り返すようになり…。

折にふれて

The Midnight Sun

監督:村田陽奈

制作国:日本

ワールドプレミア

(C)村田組2023



就職先が決まり独立することになった、ふみ。父と引きこもりの兄を残していくことが気がかりだ。兄を想いながら残りの日々を過ごすなか、ふみは不思議な町へ迷い込む。そこには長い間姿をみせなかった兄がいた。

昨日の今日

The Next Day

監督:新谷寛行

制作国:日本

ワールドプレミア

(C)昨日の今日



高校生の結衣は友人の楓を自宅に招いて、流星群を観測することになっていた。父・雄一もそれに便乗するかたちでバーベキューの準備を始めるが、そこに母・紀美子のはとこ・辰彦が現れ不思議な宴が始まる。

冬支度

Winter Stuff

監督:伊藤優気

制作国:日本

ワールドプレミア



長野の田舎町。建と明は常に行動を共にしてきた親友同士。美しい山々に囲まれた地で、建は農業、明は印刷業に励んでいる。建の祖父の死をきっかけに、二人は次第に仕事や生活への価値観の違いに気づき始める。

短編部門（8作品）

相談

LIFE IS SNOW

監督:張曜元

制作国:日本、中国

ワールドプレミア

(C)東京藝術大学大学院映像研究科

中国残留孤児であった大田は、働いていた弁当工場を解雇された。再度チャンスを与えてほしいと管理職のもとに行くが口論になり、暴行を受けたと警察に訴えた。しかし供述とは違う証拠が出てきて新たな展開を迎える。



Loudness

Loudness

監督:地曳豪

制作国:日本

ワールドプレミア

(C)2024 Loudness

時は元禄。寒村に肩を寄せ合い生きる夫婦がいた。男は越後の荒れ果てた大地を耕し、妻は男の帰りを待ちながら食事の支度をする。単調で代り映えない幸せな日々。そんな日々が、ある日唐突に終わりを告げる…。



立てば転ぶ

Stand Up and Roll

監督:細井じゅん

制作国:日本

ワールドプレミア

(C)JUN HOSOI

個人経営スーパーの閉店後。安達、石川、内田はバイトのシフトがよく重なる。執拗に無駄話をふっかける安達。応酬する石川。二人に絡まず黙々と仕事する内田。安達の駄弁には彼女なりの理由があった。



チューリップちゃん

TULIP-chan

監督:渡辺咲樹

制作国:日本

ワールドプレミア

(C)sakichi

小学生の女の子チューリップちゃん。将来の夢は「還暦を孫にお祝いしてもらいたいこと」。周囲に馴染めないまま大きくなったチューリップちゃんの元に、ある日少女がやってくる。「私は未来から来たあなたの子供です」。



だんご

DANGO

監督:田口智也

制作国:日本

ワールドプレミア

(C)2024 Yoshitaka Tateishi

刑務所から出所した兄・健は、出迎えた弟・欽也から生き別れた妹の存在を聞かされ、二人はその足で妹が住んでいる秩父へと向かう。道中、ヒッチハイクをしていた女性を乗せ、旅を共にするのだが…。



松坂さん

Matsuzaka-san

監督:畔柳太陽

制作国:日本

ワールドプレミア

(C)2023 映画美学校

木嶋は、夜のグラウンドでトンボをかける女性の映画を撮ろうと考えているが、脚本が進まずにいる。新人バイトの松坂に惹かれ、当て書きしようと思いつくが、突然彼女はバイトを辞めてしまう。



私を見て

Look at Me

監督:山口心音

制作国:日本

ワールドプレミア

女子校に通っている春花と奈々は、「呪いの絵」の噂を耳にする。美術室で偶然見つけたその絵には、一人の少女が描かれていた。徐々に二人は少女の絵に翻弄されていく。



はなとこと

Hana and Koto

監督:田之上裕美

制作国:日本

ワールドプレミア

(C)はなとこと / 田之上裕美

幼なじみの琴と華。琴は華を姉のように慕い、同じ進学先を選ぶ。ある日二人は同学年の圭一と出会い、三人の距離が縮まる。琴は華の圭一への好意に気がつくが、直後に二人の関係は予期せぬ方向へ向かう。



「みんなが観たい上映作品」

みんなの心に残る名作の中からアンケートを実施し、
上位4作品を特別上映します。

『スタンド・バイ・ミー』から『トップガン マーヴェリック』まで名作を上映します。懐かしく感じる方も、初めて観る方も、大型スクリーンにてぜひご鑑賞ください。

ドライブ・マイ・カー (PG12)



(C)2021「ドライブ・マイ・カー」製作委員会

スタンド・バイ・ミー (PG12)



(C)1986 Columbia Pictures Industries, Inc. All Rights Reserved.

ショーシャンクの空に



(C) 1994 Castle Rock Entertainment.
(C) Dividen Productions/PeepShow Pictures.
(C) 2004 Warner Bros. Entertainment Inc.
All rights reserved.

トップガン マーヴェリック



(C)2022 Paramount Pictures Corporation. All rights reserved.

特別トークイベント 「映画字幕翻訳の楽しみ方」

『トップガン マーヴェリック』上映後、映画字幕翻訳者 戸田奈津子さんをお招きし、字幕翻訳についてのお話のほか、作品をより楽しめるお話をしていただきます。



©亀井重郎

関連企画

野外上映、ワークショップ、マルシェなど盛りだくさん！

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭恒例の野外上映、カメラクレヨンのほか、今回は映像について子どもから大人まで楽しみながら学べるワークショップを開催します。さらに川口駅東口公共広場（キュポ・ラ広場）でのマルシェも開催します。

野外上映	『ペット2』『ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー』上映
カメラクレヨン	川口子ども映画クラブで制作した作品、CGアニメーション教室で制作した作品の上映
ソーマトロップを作ろう	映像の原理を学ぶワークショップ
のぼっておりてだんだんアニメーション	大きな絵を描き、広い会場で身体を使ってコマ撮りアニメーションの仕組みを学ぶワークショップ
映画制作ワークショップ	1日でシナリオ作りから映画上映までの実習
Dシネマルシェ	川口駅東口公共広場（キュポ・ラ広場）で地域のおいしいお店・魅力的なお店が多数出店

ペット2 (日本語吹替版)



(C)2019 Universal Studios. All Rights Reserved.

ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー (日本語吹替版)



(C)2023 Nintendo and Universal Studios. All Rights Reserved.

主催者、国際コンペティション・国内コンペティション審査委員長ほか登壇者コメント

記者発表では、主催者の大野元裕(映画祭実行委員会会長、埼玉県知事)、開催市代表の奥ノ木信夫(映画祭実行委員会副会長、川口市長)、八木信忠(映画祭総合プロデューサー)、白石和彌(国際コンペティション審査委員長、映画監督)、横浜聡子(国内コンペティション審査委員長、映画監督)、土川勉(映画祭ディレクター)、串田壮史(オープニング作品『初級演技レッスン』監督)の計7名が登壇し、映画祭開催への期待と意気込みを語りました。コメントは以下の通りです。

●大野 元裕 (映画祭実行委員会会長/埼玉県知事)

本映画祭は2004年から「若手映像クリエイターの登竜門」として開催しており、今年で21回を数えることとなりました。今年は102の国と地域から1,201作品が集まりました。世界中の地域から応募されていることは、SKIPシティと世界がつながっているイメージが持てると思います。この1,201作品の中から24作品を上映し、白石和彌監督、横浜聡子監督を始めとする審査員の皆様に最優秀作品賞などを選んでいただく予定となっております。

今回、次世代の映像業界を担う若手クリエイターに向けた企画として、白石和彌監督と横浜聡子監督にご協力をいただき「商業映画監督への道」と題したトークイベントを実施いたします。その他、夜の涼しい時間帯を利用した親子で映画を楽しめる催しや、映像制作の楽しさを体験いただけるワークショップなども開催させていただきます。

映画を志す人、映画を観る人、そしてそこに参加をして雰囲気を楽しめる人、全ての人が楽しめるような催しにしていきたいと思っております。

●奥ノ木 信夫 (映画祭実行委員会副会長/川口市長)

映像クリエイターの発掘と育成、更にはデジタルシネマの普及を通じて映像関連産業の振興に寄与することを目的としている本映画祭も、今年で21回目の開催となります。

今年の国際コンペティションの審査委員長は、2009年の本映画祭にてSKIPシティアワードを受賞し、『碁盤斬り』が絶賛公開中の白石和彌監督に、さらに国内コンペティションの審査委員長は、2021年の映画『いとみち』などで活躍されている横浜聡子監督に務めていただきます。オープニングは、2020年に『写真の女』で本映画祭SKIPシティアワードを受賞し、昨年も国際コンペティションにノミネートされた串田壮史監督の新作『初級演技レッスン』で幕を開けます。各コンペティションの他、参加・体験型の企画を多数用意しています。

また、今年から主催者に加わった川口商工会議所が中心となり、川口駅東口キュポ・ラ広場にて賑わい創出と映画祭の誘客を促すPRイベント「Dシネマルシェ」を実施します。私が会長を務める「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭を応援する市民の会」においては、今年も役員の皆さんに協力いただき、コンペティションの副賞となる協賛金をいただくなど、市をあげて映画祭を応援しています。映画祭の開催期間中はJR川口駅西口からSKIPシティへの無料バスも運行しますので、ぜひ川口に来て、映画をお楽しみください。

●八木 信忠 (映画祭総合プロデューサー)

本映画祭は2004年に第1回を開催しました。2004年と言いますと、まだ映画は「電気信号で撮るものじゃない」という人々もたくさんいるような時代でした。2011年になり、ようやく日本のテレビ放送がハイビジョンになったわけですから、デジタルなんてダメだと言われていた2004年に「そんなことは無いんだ！綺麗に映せばちゃんと映るんだ」と言い続け、最新のプロジェクターを導入しました。

そんな最良を求め続けたデジタル画面を皆さんにお見せする本映画祭も20年以上も経ちました。今では世界中から作品が集まり、ますます盛んになっております。今後とも宜しくお願いします。

●白石 和彌 (国際コンペティション審査委員長／映画監督)

2009年に初めて作った『ロストパラダイス・イン・トーキョー』が本映画祭のコンペティションに入り、そこから映画を作る人生のスタートが切れたという実感がとてもあります。それから15年も続いているということが有難いですし、Dシネマ映画祭という点で言うと、もう今やデジタルで映像を作ることが当たり前のような世界になり、デジタルシネマを紹介しようという意味でのこの映画祭の役割はひょっとすると終わっているのかもと思う部分もありますが、わたし自身もその中に入っていると思いますが、たくさんのクリエイターや映画ファンが、この映画祭を通して生まれているという意味で、大変意義のある重要な映画祭と感じています。有難いことに何度か審査員のお誘いをいただいていたのですが、毎年夏の撮影が立て込んでいて何年もお引き受けできなかったのですが、今年はちょうどタイミングが合い、審査員をやらせていただきます。

僕も色々な映画祭に行くこともありますが、審査員なのにスクリーンで一緒に観ないという方もいるんですよ。僕は今回しっかりスケジュールを空けているので、最低でも審査する10本は必ずスクリーンで、クリエイターや観客の皆さんと一緒に観ようと思っています。毎日通って楽しみたいですね。これからもこの映画祭を続けていただけるよう、僕も精一杯、参加しながら盛り上げたいと思っていますので、皆さんも宜しくお願いします。

●横浜 聡子 (国内コンペティション審査委員長／映画監督)

大変光栄な役割を仰せつかりました。わたしは青森県の出身で、青森にもかつては映画祭がいくつもあったんですが、今やゼロになってしまいました。地域で映画祭を続けることの大変さというものをはたて見ていたので、SKIPシティ国際Dシネマ映画祭がこんなにも長く続けていること、そしてそれを長らく支えていらっしゃる皆様に、心から敬意を表したいと思います。

若い作家がこういった大きな映画祭で作品を観てもらうことは、嬉しいことでもあり、反面、自分の計り知れない部分を数多くの他者の目にさらすことでもあり、時には厳しい批判や意見に向き合わなければならないこともあります。コンペティション部門に選出された作品はそういった宿命を背負っているのだと言えます。ただ、自作を多くの他者に観てもらい、そして作家自身が他者の作品を浴びるように観ることを通して、初めて自分の感覚というものが研ぎ澄まされ、更なる成長に向かっていくのではないかと思います。そういう意味でも、この映画祭は作り手にとって大変貴重な場です。わたし自身も、そうやって他人に見つけていただいて、今こうしてこの場に立っています。有難い言葉、厳しい言葉があって、今ここにいられます。今回は自分が審査員として、若い方々が更なる高みへと向かっていけるような言葉や、何かを、必死に探して伝えられたらと思っています。自由で刺激的な作品に出逢えることを楽しみにしています。

●土川 勉 (映画祭ディレクター)

お陰様で本映画祭は昨年20周年という節目を迎えることができました。そして21回目の今年は新たな出発の年となります。映画祭のオープニング映画は、串田壮史監督による『初級演技レッスン』です。主役は、2011年の本映画祭で短編部門にノミネートされ短編部門奨励賞を受賞した映画『ケンとカズ』のカズ役で出演した毎熊克哉さんに出演をお願いすることができました。毎熊さんもまたSKIPシティ国際Dシネマ映画祭に戻って来てくれました。

このように21年目を迎える本映画祭では、過去様々な映画人との出会いがあり、その出会いは決して偶然ではなく、むしろ必然であったようにわたしは感じます。これは本映画祭で出会ったその人たちが、その後の日本映画界を支えるような映画人となり、また戻ってきてくれる歴史であったように思います。このことは映画祭に携わる私たちにとっては本当に嬉しいことです。今後もこのような出会いを本映画祭は大切にしたいと思います。

●串田 壮史 (オープニング作品『初級演技レッスン』監督)

『初級演技レッスン』という作品は、僕にとって三本目の長編です。映画祭のルールでは、作品を応募できるのは長編3作目までなので、今回のオープニング作品で僕はSKIPシティ映画祭を卒業するということになります。夜、川口の繁華街で、上映を終えた映画人たちと交流するというのが映画祭の思い出として印象深いですね。僕はもう3回目なので、川口のディープな場所にもだいぶ詳しくなりましたし、今年はより深い話を皆さんとしたいなと思っています。

『初級演技レッスン』は、映画祭のファンや地元の映画ファンの方々も楽しめるように作った作品です。と同時に、国際的な第一線で活躍している方々がわざわざ日本に来るインターナショナル映画祭ですから、そういった方々にも目覚めの一発を届けられるような刺激のある作品に仕上がっています。ワールドプレミアなので作品の内容を深くは話せませんが、もしかしたらファミリー映画かもしれないし、またはホラー映画かもしれません。是非、ご期待ください。

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024開催概要

- 会 期 : 《スクリーン上映》 2024年7月13日(土)～7月21日(日)
《オンライン配信》 2024年7月20日(土)10:00 ～ 7月24日(水)23:00
- 会 場 : SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ 映像ホール、多目的ホールほか(埼玉県川口市)
- 主 催 : 埼玉県、川口市、川口商工会議所、SKIPシティ国際映画祭実行委員会
- 公式サイト: www.skipcity-dcf.jp

【素材のご提供】

記者発表のフォトセッション他オフィシャル写真、本映画祭ノミネート作品の画像素材、プレス資料などは、以下URLよりダウンロードいただけます。
各作品の詳細は、プレス資料をご覧ください。



<https://x.gd/u2FkV>

【プレスパスのご案内】

期間中にノミネート作品をスクリーン上映会場およびオンラインでご鑑賞いただけるプレスパスのお申込みを本日より開始いたしました。以下URLから使用方法・注意事項をご確認のうえぜひお申込みください。



<https://www.skipcity-dcf.jp/press/>